

## 加島駅(JR東西線)

## 『雨月物語』の上田秋成ゆかりの香具波志神社へ



「大阪あそ歩マップ集」  
その3 No.102・103

## JR加島駅

加島は、古くは蟹島・神島・歌島・賀島なども表記され、神崎川が開削された延暦4年(785)以来、長岡京・平安京と西国を結ぶ要衝の地として栄え、また、遊女の里として「天下第一の楽地」と評判になったこともあります。

## ①天神社跡碑(竹島公園)

ここには文禄3年(1594)に勧請された竹島天神社の祠がありました。明治42年(1909)に香具波志神社に合祀されました。公園から南西に少し入ると古い屋敷が並ぶタイムスリップしたような一画があります。

## ②香具波志神社

香具波志神社は、江戸時代まで加島稻荷とも呼ばれていました。広くこのあたり一帯の氏神で、平安から鎌倉時代にかけて、神社の連歌殿で連歌会が盛んに催されたといえます。江戸時代に怪異小説集『雨月物語』を書いた上田秋成は、幼くして病弱でしたが、加島稻荷から68歳まで生きると告げられ、以後参拝を怠らず続けました。68歳の年に68首の和歌帖を奉納しています。すぐれた古典注釈書、和歌集や小説を遺して76歳で亡くなりました。香具波志神社に墓碑があります。



## ③加島銭座

徳川幕府は、金・銀に銭を加えた三貨の貨幣制度を布きました。銅や銑鉄ほかの金属を使った貨幣が銭で、寛永通宝が最初です。铸造は町人請負で、全国に60カ所以上の銭座が設けられましたが、この加島に大坂の銭座がありました。「酒は灘、銭は加島」といわれるほど高品質の銭が铸造されたといわれます。香具波志神社門前から神崎川堤防までの地域に銭座があったといわれています。

## ④毛斯倫橋

毛斯倫=モスリンとは羊毛を素材にした織物で、ヨーロッパから輸入していましたが、明治の中ごろには日本でも製造され、日本毛織や毛斯倫紡織という会社が生れました。毛斯倫紡織が大正12年(1923)に加島対岸の園田村に工場を建設し、加島側の本社と結ぶ毛斯倫橋を神崎川に架けました。のちに鐘紡が工

場を引き継ぎましたが、戦争中に空襲で焼失しました。日本の毛織物の歴史を語る橋です。



## ⑤富光寺

富光寺には、楠木正成の三男・正儀が佐々木秀詮と戦ったとき本陣を置いたとか、戦国大名・三好長慶が支配していたとか、法然上人が讃岐に流されるときに法話をしたとか、河口の要衝の地にふさわしい逸話が残っています。神崎橋対岸の尼崎川に「遊女塚」があります。遊女・宮城は法然上人に懺悔して念仏を授けられ、他の4人の遊女とともに入水したといういわれの塚です。

## JR加島駅

